

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	基礎看護学実習 I	1	30	1	1	専任教員
実 習 目 的						
<p>患者の療養環境を捉え、健康の回復に向けた適切な環境調整に必要な看護の視点を養う。 患者との関わりを通して、看護実践の基盤となる患者・看護師間の人間関係形成について考える。</p>						
実 習 目 標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者を取り巻く環境を捉えることができる。 2. 患者にとって快適な環境について考えることができる。 3. 患者の療養環境を整えることができる。 4. 看護学生としてふさわしい態度・姿勢をとることができる。 						
実 習 内 容				留 意 点 等		
<p>実習要項参照</p>				<p>事前学習を行い、実習要項及び技術経験表を確認しながら主体的に学ぶ</p> <p><実習時間> 臨地実習 30時間 ・6時間(9:30～15:00)×5日</p>		
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
<p>「看護学概論」メディカ出版 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 「基礎看護技術Ⅰ」 基礎看護学3 「基礎看護技術Ⅱ」医学書院</p>			<p>「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院</p>			
主とする授業形態			評 価 方 法			
<p>臨地（病院）における実習</p>			<p>実習要項参照</p>			

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	基礎看護学実習Ⅱ	1	60	1	2	専任教員
実 習 目 的						
健康上の課題のある患者の日常生活援助を通じて看護援助に必要な基礎的能力を養う。						
実 習 目 標						
1. 患者の生活を捉えることができる。 2. 患者に行われている日常生活援助の必要性が述べられる。 3. 患者の安全・安楽・自立を考慮した援助計画が考えられる。 4. 立案した援助計画に基づいた日常生活援助が実施できる。 5. 実施した援助の振り返りができる。 6. 看護学生として責任ある行動がとれる。						
実 習 内 容				留 意 点 等		
実習要項参照				事前学習を行い、実習要項及び技術経験表を確認しながら主体的に学ぶ <実習時間> 臨地実習 56時間 ・7時間 (9:30～15:45)×8日 学内実習 4時間 ・1時間 実習オリエンテーション ・2時間 指定した日 ・1時間 実習まとめの会		
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 「基礎看護技術Ⅰ」 基礎看護学3 「基礎看護技術Ⅱ」 「フィジカルアセスメントガイドブック」 医学書院 「看護形態機能学 生活行動からみるからだ」 日本看護協会出版			「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院 「看護過程に沿った対症看護」学研 「改訂版 実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド」照林社 系統看護学講座 人体の構造と機能1 「解剖生理学」 医学書院			
主とする授業形態			評 価 方 法			
臨地（病院）における実習			実習要項参照			

領域: 専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	基礎看護学実習Ⅲ	2	90	2	1	専任教員
実 習 目 的						
健康上の課題のある患者の日常生活上における問題を解決するためのプロセスを理解し、看護実践できるための基礎的能力を養う。						
実 習 目 標						
1. 患者の健康問題と生活を理解することができる。 2. 健康の維持・回復に向け、患者の生活を整える必要性を考えることができる。 3. 患者の健康問題を解決するための日常生活支援が計画できる。 4. 患者の反応を捉え、安全、安楽に日常生活支援が実践できる。 5. 看護学生として他者と協調し、責任ある行動がとれる。						
実 習 内 容				留 意 点 等		
実習要項参照				事前学習を行い、実習要項及び技術経験表を確認しながら主体的に学ぶ <実習時間> 臨地実習 88時間 ・8時間(9:00～16:00)×11日 学内実習 2時間 ・1時間 実習オリエンテーション ・1時間 まとめのお会		
テ キ ス ト				サ ブ テ キ ス ト		
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 「基礎看護技術Ⅰ」 基礎看護学3 「基礎看護技術Ⅱ」 基礎看護学4 「臨床看護総論」 医学書院				「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント」ヌーベルヒロカワ 「看護過程に沿った対症看護」学研 「改訂版 実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド」照林社 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院		
主とする授業形態				評 価 方 法		
臨地(病院)における実習				実習要項参照		

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期	担当講師
成人・老年看護学	成人・老年看護学 急性・回復期実習	2	90	3	専任教員
実 習 目 的					
成人・老年期にある対象を全人的に捉え、個人及び家族に対して急速な健康状態の変化に応じた看護を 実践できる能力を養う。					
実 習 目 標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人・老年期の特徴を捉え、急性期から回復期にある対象を身体的・精神的・社会的・文化的側面から統合し、理解できる。 2. 検査・治療・処置を受ける対象への援助が理解できる。 3. 急性期に起こり得る合併症を予防し、早期回復に向けた援助ができる。 4. 病状・治療に伴う苦痛緩和への援助ができる。 5. 対象の回復過程にあわせて日常生活の自立/自律に向けた援助ができる。 6. 対象の社会復帰に向けた援助が理解できる。 7. 看護学生の看護チームの一員として自己の課題を見出し、改善に向けた行動がとれる。 					
実 習 内 容				留 意 点 等	
実習要項参照				<p>事前学習を行い、実習要項及び技術経験表を確認しながら主体的に学ぶ</p> <p><実習時間> 臨地実習 84時間 ・8時間(9:00~16:00)×9日間 ・4時間(9:00~12:00)×0.5日間 ・8時間(8:30~15:30)×1日間 学内実習 6時間 ・2時間 実習前オリエンテーション ・4時間(13:00~16:00)×0.5日間 合同カンファレンス(最終日)</p>	
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト		
ナーシンググラフィカ 成人看護学①「成人看護学概論」メディカ出版 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学4「臨床看護総論」 成人看護学3「循環器」 成人看護学5「消化器」 成人看護学7「脳神経」 成人看護学8「腎・泌尿器」 成人看護学10「運動器」 別巻「臨床外科看護総論」「臨床外科看護各論」 医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学①「高齢者の健康と障害」 老年看護学②「高齢者看護の実践」メディカ出版			「看護過程に沿った対症看護」学研 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」 医学書院 「生活機能から見た老年看護過程+病態生活機能 関連図」医学書院		
主とする授業形態			評 価 方 法		
臨地(病院)における実習			実習要項参照		

領域: 専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
成人・老年看護学	成人・老年看護学 慢性期実習	2	90	2	2	専任教員
実 習 目 的						
成人・老年期にある対象を全人的に捉え、個人及び家族に対して慢性的な健康状態の変化に応じた看護を実践できる能力を養う。						
実 習 目 標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人・老年期の特徴を捉え、慢性期にある対象を身体的・精神的・社会的・文化的側面から統合し理解できる。 2. 日常生活の自立に向けたセルフケア能力の維持・拡大への援助ができる。 3. 慢性期にある対象のQOLの維持・向上に向けた援助ができる。 4. 対象を取り巻く家族への支援の必要性が理解できる。 5. 保健医療福祉チームにおける看護の役割が理解できる。 6. 看護学生としての自己と慢性期実習での看護実践を振り返り、自己の課題を見出し、改善に向けた行動ができる。 						
実 習 内 容					留意点等	
実習要項参照					事前学習を行い、実習要項及び技術経験表を確認しながら主体的に学ぶ <実習時間> 臨地実習 88時間 ・8時間(9:00~16:00)×11日間 学内実習 2時間 ・2時間 実習前オリエンテーション	
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
ナーシンググラフィカ 成人看護学①「成人看護学概論」メディカ出版 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学4「臨床看護総論」 成人看護学7「脳神経」医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学①「高齢者の健康と障害」 老年看護学②「高齢者看護の実践」メディカ出版			「看護過程に沿った対症看護」学研 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院 「生活機能から見た老年看護過程+病態生活機能関連図」医学書院			
主とする授業形態			評 価 方 法			
臨地(病院)における実習			実習要項参照			

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期	担当講師
成人・老年看護学	成人・老年看護学 終末期実習	2	90	3	専任教員
実 習 目 的					
成人・老年期にある対象を全人的に捉え、人生の最終段階における個人及び家族に対して健康状態の変化に応じた看護を実践できる能力を養う。					
実 習 目 標					
1. 成人・老年期の特徴を捉え、終末期にある対象を身体的・精神的・社会的・霊的（スピリチュアル）側面から理解できる。 2. 終末期にある対象の全人的苦痛に応じた援助を理解できる。 3. 終末期にある対象の家族への援助について理解できる。 4. 対象の看護を通して死生観（生きること、死ぬこと）を深めることができる。 5. 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動することができる。					
実 習 内 容				留意点等	
実習要項参照				事前学習を行い、実習要項及び技術経験表を確認しながら主体的に学ぶ <実習時間> 臨地実習 88時間 ・8時間（9：00～16：00）×11日間 学内実習 2時間 ・2時間 実習前オリエンテーション	
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト		
ナーシンググラフィカ 成人看護学①「成人看護学概論」メディカ出版 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学4「臨床看護総論」 成人看護学2「呼吸器」 成人看護学5「消化器」医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学①「高齢者の健康と障害」 老年看護学②「高齢者看護の実践」メディカ出版			「看護過程に沿った対症看護」学研 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院 「生活機能から見た老年看護過程＋病態生活機能関連図」医学書院		
主とする授業形態			評 価 方 法		
臨地（病院）における実習			実習要項参照		

領域: 専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
老年看護学	老年看護学生生活援助実習	2	60	2	2	専任教員
実 習 目 的						
<p>老年期にある対象を全人的に捉え、多様な生活の場において対象の健康を支える看護を実践できる能力を養う</p>						
実 習 目 標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の発達段階を踏まえ対象の加齢現象を理解し、身体的・精神的・社会的・文化的側面から捉えることができる。 2. 多様な生活の場で暮らす高齢者のさまざまな健康状態に応じたその人らしい生活への援助が実施できる。 3. 老年期にある対象が生きてきた背景や価値観を踏まえ、老年観を養うことができる。 						
実 習 内 容					留 意 点 等	
<p>実習要項参照</p>					<p>事前学習を行い、実習要項及び技術経験表を確認しながら主体的に学ぶ</p> <p><実習時間> 臨地実習 56時間 ・8時間 (9:30~16:30) ×3日間：通所施設 ・8時間 (9:30~16:30) ×4日間：入所施設 学内実習 4時間 ・2時間 実習前オリエンテーション ・2時間 合同カンファレンス</p>	
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
<p>ナーシンググラフィカ 老年看護学①「高齢者の健康と障害」 老年看護学②「高齢者看護の実践」メディカ出版</p>			<p>「生活機能から見た老年看護過程+病態生活機能関連図」医学書院</p>			
主とする授業形態			評 価 方 法			
<p>臨地（介護老人保健施設・特別養護老人ホーム・デイサービス・デイケア）における実習</p>			<p>実習要項参照</p>			

領域: 専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期	担当講師
小児看護学	小児看護学実習	2	90	3	専任教員
実 習 目 的					
小児期にある対象（子ども、患児）を全人的に捉え、小児とその家族に対し発達段階・健康上の課題に応じた看護が実践できる能力を養う。					
実 習 目 標					
<p>【保育園】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 年齢・月齢による成長発達の特徴が理解できる。 2. 基本的な生活習慣獲得のための保育のあり方が理解できる。 3. 遊びの目的・重要性を理解し、発達に合わせてともに遊ぶことができる。 4. 乳幼児に対する事故・疾病の予防対策の重要性が理解できる。 5. 乳幼児期の子どもを持つ保護者への支援について理解できる。 <p>【病棟】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康上の課題・入院が小児期の対象に及ぼす影響が理解できる。 2. 対象の健康上の課題・成長発達に応じた援助が実践できる。 3. 対象の健康上の課題・入院が家族に及ぼす影響と必要な援助を理解できる。 4. 小児の意思を尊重し関与することができる。 					
実 習 内 容				留 意 点 等	
実習要項参照				<p>事前学習を行い、実習要項及び技術経験表を確認しながら主体的に学ぶ</p> <p><実習時間> 臨地実習 86時間 ・保育園 8時間（9：30～16：30）×3日間 ・病棟 8時間（9：30～16：30）×7日間 6時間（11：00～16：30）×1日間 間：合同カンファレンス実施日 学内実習 4時間 ・2時間 実習前オリエンテーション ・2時間（9：30～11：00） 合同カンファレンス</p>	
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト		
系統看護学講座 専門分野 小児看護学1「小児臨床看護総論」 小児看護学2「小児臨床看護各論」医学書院			「写真でわかる小児看護技術」 インターメディアカ		
主とする授業形態			評 価 方 法		
臨地（保育園及び病院）における実習			実習要項参照		

領域: 専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期	担当講師
母性看護学	母性看護学実習	2	90	3	専任教員
実 習 目 的					
妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族を理解し、対象に応じた看護が実践できる能力を養う。					
実 習 目 標					
1. 妊婦・産婦・褥婦を身体的・精神的・社会的・文化的側面から統合し、理解できる。 2. 妊娠・分娩・産褥期の正常な経過を理解し、各期に応じた援助ができる。 3. 新生児の特徴を理解し、対象に応じた援助ができる。 4. ハイリスク新生児及び家族の看護について理解できる。 5. 母性看護における継続看護の必要性を理解できる。 6. 生命の尊さについて考え、親性観、母性観・父性観を深めることができる。 7. 看護学生や看護チームの一員として自己の課題を見出し、改善に向けた行動がとれる。					
実 習 内 容				留意点等	
実習要項参照				事前学習を行い、実習要項及び技術経験表を確認しながら主体的に学ぶ <実習時間> 臨地実習 84時間 ・8時間 (9:00~16:00) ×10日間 ・4時間 (9:00~12:00) ×1日間 学内実習 6時間 ・2時間 実習前オリエンテーション ・4時間 (13:00~16:00) まとめ: 実習後最終日	
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト		
系統看護学講座 専門分野 母性看護学1 「母性看護学概論」 母性看護学2 「母性看護各論」 医学書院			「写真でわかる母性看護技術」 インターメディカ		
主とする授業形態			評 価 方 法		
臨地 (病院) における実習			実習要項参照		

領域:専門分野

学 科 目	授 業 科 目	単 位	時 間 数	履 修 学 年 ・ 学 期	担 当 講 師
精神看護学	精神看護学実習	2	90	3	専任教員
実 習 目 的					
精神に健康上の課題をもつ対象を理解し、適切な援助ができる能力を養う。					
実 習 目 標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に健康上の課題をもつ対象の特徴を捉え身体的・精神的・社会的・文化的側面から統合し、理解することができる。 2. 患者－看護師関係の発展にむけての行動をとることができる。 3. 精神に健康上の課題をもつ対象の日常生活に及ぼす影響を理解し、セルフケアを促すための援助ができる。 4. 精神に健康上の課題をもつ対象の安全や権利を尊重した行動をとることができる。 5. 精神保健医療福祉チームの一員として、チームで関わることの意義を理解することができる。 6. 精神に健康上の課題をもつ対象に看護学生として責任ある行動をとることができる。 					
実 習 内 容				留 意 点 等	
実習要項参照				事前学習を行い、実習要項及び技術経験表を確認しながら主体的に学ぶ <実習時間> 臨地実習 88時間 ・8時間(9:00~16:00)×11日間 学内実習 2時間 ・2時間 実習前オリエンテーション	
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト		
系統看護学講座 専門分野 精神看護学1「精神看護の基礎」 精神看護学2「精神看護の展開」 医学書院					
主とする授業形態			評 価 方 法		
臨地(病院)における実習			実習要項参照		

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期	担当講師
地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習	2	90	3	専任教員
実 習 目 的					
地域・在宅における看護活動、継続した看護の必要性を理解し、その人の生活を支援する援助および問題解決のための援助が実践できる能力を養う。					
実 習 目 標					
1. 地域で生活する対象とその家族の生活が理解できる。 2. 地域で生活する対象とその家族を支える地域包括ケアシステムにおける多職種連携と看護の役割が理解できる。 3. 在宅療養者とその家族を理解し、生活環境に応じた看護が実践できる。 4. 地域・在宅看護における基本的態度が理解できる。					
実 習 内 容				留 意 点 等	
実習要項参照				事前学習を行い、実習要項及び技術経験表を確認しながら主体的に学ぶ <実習時間> 臨地実習 84時間 ・保健センター 7時間 (9:30~15:45) ×2日間 ・地域包括支援センター 8時間 (9:00~16:00) ×3日間 ・地域連携室 8時間 (9:00~16:00) ×1日間 ・訪問看護ステーション 9時間 (8:30~16:15) ×4日間 10時間 (8:30~17:00) ×1日 間：最終日 学内実習 6時間 ・1時間 実習前オリエンテーション ・5時間 (9:00~13:45) 合同カンファレンス	
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト		
新体系看護学全書 「地域・在宅看護論」 メジカルフレンド社			看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術 メジカルフレンド社		
主とする授業形態			評 価 方 法		
臨地（保健センター・地域包括支援センター・訪問看護ステーション・病院）における実習			実習要項参照		

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期	担当講師
看護の統合と実践	統合実習	2	90	3	専任教員
実 習 目 的					
専門分野で学んだ内容を統合し、看護チームの一員として対象（患者）の状態や状況に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。					
実 習 目 標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象に応じた優先順位・時間管理を考え、安全安楽な援助ができる。 2. 1日を通した対象の療養生活を支える継続した看護の必要性を理解できる。 3. 看護単位における各々の役割を理解し、チームの一員として援助ができる。 4. 対象に関わる保健・医療・福祉チームの役割を知り、多職種と連携・協働しながら看護が実践できる。 5. 看護管理の実際を理解できる。 6. 専門職業人としての責任感と倫理観について考え、卒業後に向けて自己の課題を明確にできる。 					
実 習 内 容				留意点等	
実習要項参照				<p>事前学習を行い、実習要項及び技術経験表を確認しながら主体的に学ぶ</p> <p><実習時間> 臨地実習 86時間 ・9時間（8：30～16：15）×8日間 ・9時間（13：45～21：30）×1日間（夜間実習） ・5時間（13：00～16：45）×1日間（夜間実習翌日） 夜間実習 学内実習 4時間 ・2時間 実習前オリエンテーション ・2時間（10:30～12:00）：夜間実習の翌日</p>	
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト		
ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践①「看護管理」 看護の統合と実践②「医療安全」 基礎看護学①「看護学概論」 メディカ出版					
主とする授業形態			評 価 方 法		
臨地（病院）における実習			実習要項参照		